

# 株式会社 平山工業

平成 30年 7月度

平成 30年 7月 28日

## 安全衛生協議会

### 1. 安全教育

- ・先月度の重点行動目標の実施報告
- ・重点行動目標の作成

### 2. 会社連絡事項

- ・経費規定について
- ・各地方の社寮の増減について。
- ・通勤用自転車(原付き)の置き方について
- ・ヒヤリ・ハット報告書の提出について
- ・車両に増加の報告
- ・車両に点検について

### 3. 社員からの要望

- ・特になし
- ・
- ・

### 4. 今月の重点行動目標

## 熱中症の対策

#### 具体的な事例

橋脚梁部のワイヤーソー切断作業で熱中症になりかけた。  
(幹線道路上吊り足場上での作業で削孔水飛散養生で風通しが悪い。)  
(人員が2名だったのでオペと監視人の2名は作業場所から離れられない。)  
(桁が鋼製のボックス桁だったので桁が熱を持っていた。)

#### 具体的な対策

- ☆こまめな水分補給(現場にペットボトルを持ち込む。)
- ☆こまめな休憩を取るために余裕をもった人員配置をする。
- ☆首に冷却タオルを巻く。

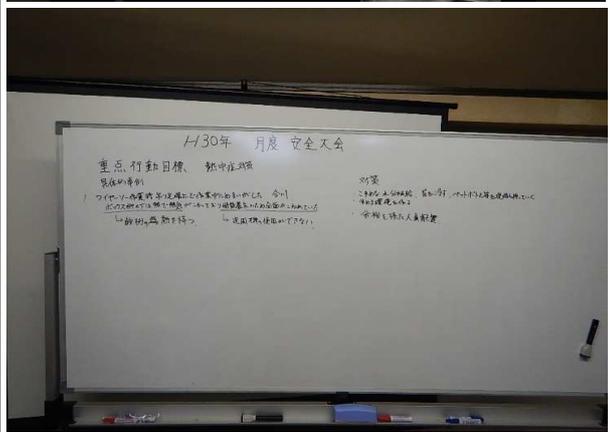
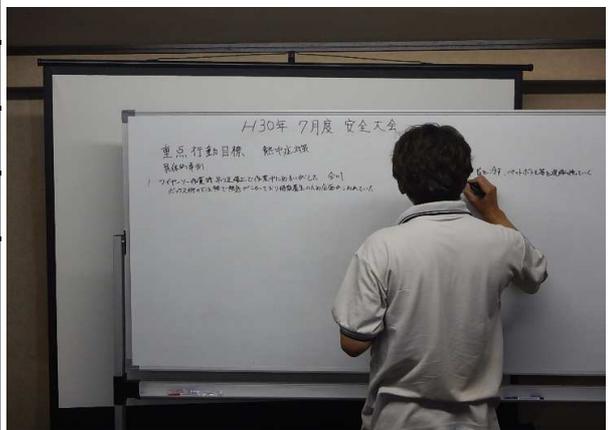
写真NO.	1
タイトル	安全衛生協議会
場所	会議室
開催日	平成30年7月28日

備考:  
参加者:14名



写真NO.	2
タイトル	安全衛生協議会
場所	会議室
開催日	平成30年7月28日

備考:  
参加者:14名



# (株) 平山工業

平成 30年 7月度 ヒヤリ・ハット報告書まとめ

No.	報告者氏名	概 要
1	増尾 友寿	バキュームブラスト作業でブラスト作業中研磨材が飛散して目に入った。
2	武内 直行	雨天時自家用車で通勤途中見通しが悪く前方の車両に接触しそうになった。
3	橋本 隆	アンカー筋 (D19 : 5m) を定着の為に立て掛けて置いていた時バランスを崩し倒れてきた。
4	比嘉 武	足場上でロープを使って荷揚げ作業をしていた2名が熱中症になりかけた。
5	加藤 武志	橋脚足場上でワイヤーソー作業時暑さのせいで目眩がした。
6	三木 博明	バキュームブラスト作業で後片付けをしていた時頭がクラクラし熱中症になりかけていた。
7	長濱 浩好	通勤車両で現場に向かっている時睡魔に襲われ居眠り運転になってしまい前方の車両にぶつかりかけた。
8	網野 温也	ブラケット足場上で上向きアンカーの樹脂注入の為にシール作業中足元の確認不足の為にバランスを崩し転倒しかけた。
9	藤田 陽之	橋梁天端上狭い場所でのコア削孔時天端から1.5m下の足場に落下しそうになった。
10	白井 真人	橋脚足場上コア削孔でチューブの取替を行っていた時手が攣った。(熱中症と思われます。)
11	今川 一仁	橋脚足場上でワイヤーソー作業時暑さのせいで目眩がした。
12	田村 政也	バキュームブラスト車トラック荷台上で雨養生のシートを張っている時足元が滑り転びかけた。
13	岩本 一輝	川に設置していた水ポンプを引き上げるとき胸ポケットに入れていたライトを落とした。
14	築場 友哉	吊り足場上コア削孔でコアチューブに残っていたコアガラを取っていた時ガラを下部に落としかけた。
15	居川 蓮也	橋脚天端上で道具運搬時足元にあったL型アングルに足が当たりアングルが落ちそうになった。
16	河田 康平	グラインダーでコンクリートの表面処理を行っていた時石が面体越しに飛んできた。
17	孔 国	バキュームブラスト作業でブラスト作業中研磨材を飛散させてしまった。
18	姜 昆	ブラケット足場上で上向きアンカーの樹脂注入の為にシール作業中足元の確認不足の為に道具を蹴ってしまい落としかけた。
19	趙 躍進	バキュームブラスト作業でブラスト作業中研磨材を飛散させてしまった。
20	大川 瑞貴	ドリル削孔時ドリルが既設鉄筋に干渉しドリルが回転して顔面に当たった。
21	島田 強	現場コンテナに使用済みの樹脂容器を入れた段ボールを捨てに行く際段ボールの底が抜けて容器をばら撒いてしまった。
22	高橋 尚也	寮の駐車場へワンボックスカーをバックで駐車中電柱に車をぶつけてしまった。
23		
24		
25		

# (株) 平山工業

## 平成30年 7月度 安全衛生協議会

開催日

平成30年7月28日

開催場所

会議室

### 出席者名簿

No.	氏名	No.	氏名
1	築場 友哉	17	
2	長濱 三浩 女	18	
3	趙 躍進	19	
4	姜 昂	20	
5	孔 国	21	
6	日村 政也	22	
7	高橋 尚也	23	
8	網野 温也	24	
9	島田 強	25	
10	今川 一仁		
11	増尾 友寿		
12	加藤 武光		
13	平山 健二		
14	鎌倉 祐輔		
15			
16			